

大会ルール年表			
年代	寸止めルール	直説打撃ルール	防具付きルール
1950年代 前半	大学空手部では「交換稽古」が行われたが、負傷者多発する。		
1950年代 後半	当てずに制御する方法の研究がなされる。		
1954年		大山道場設立	第1回全国空手道選手権大会（錬武会主催）※第4回まで防具付き
1959年	第5回全日本空手道選手権大会（旧全空連主催）		
1960年代	「寸止めルール」が整備され、空手協会や大学空手にも普及する。		実戦性を保ちながら安全性を高める防具付きルールの研究が進む
1964年	全空連設立	極真会館設立	
1960年代 後半		直説打撃制の研究が始まる。	胴当て、面、グローブなどの試作が進む
1969年		第1回全日本空手道選手権大会開催（極真会館主催）	
1970年代		極真会館の支部が全国に設立され全日本大会が充実する	防具付き大会が各地で開催され、団体独自のルール整備が進む
1980年代 以降	ルールの明確化が進み伝統派団体の試合形式として定着する	海外支部が充実し、レベルが向上するが、スポーツ化が進む	顔面攻撃、投げ技などを含む総合格闘技的な方向へ発展する